

2016 Annual Report

一般社団法人 Colabo | 2016年 活動報告書

「すべての少女に衣食住と関係性を。
困っている少女が暴力や搾取に
行きつかなくてよい社会に」を合言葉に、
中高生世代を中心とする
女子を支える活動を行っています。

Colabo

私たちの想い

高校時代、私は渋谷で月25日を過ごす“難民高校生”でした。
家族との仲は悪く、教員ともうまくいかず、街を彷徨っていた私は
当時、「自分にはどこにも居場所がない」と思っていました。
街には同じような想いを抱えて集まっている人がたくさんいました。
ファーストフードや漫画喫茶、居酒屋、カラオケの他、ビルの屋上に
段ボールを敷いて一夜を明かしたこともありました。当時の私や
友人たちは、家庭にも学校にも居場所をなくした“難民”でした

そうした少年少女が、見守る大人のいない状態で生活するようになると、危険に取り込まれやすくなります。心身ともにリスクの高いところで搾取される違法の仕事、未成年の少女たちの売春斡旋や、暴力、予期せぬ妊娠や中絶など、目をつぶりたくなるような現実を、私はたくさん目にしてきました。友達を助けられないこともありました。

高校を中退し、このままでは生活できない、どうすればよいのだろうと悩んでいましたが、頼ったり、相談したりできる大人はいませんでした。そんな私に声をかけてくるのは、買春者か、危険な仕事に斡旋しようとする人だけでした。それ以外に、自分に関心を寄せてくれる大人はいないと感じていました。

それから約10年が経ち、27歳になった私も「大人」と言われるようになりました。今でも、そうした少年少女に路上やネット上で声をかけるのは、多くが手を差し伸べる大人ではないのが現状です。

「大人はわかってくれない」「大人は信用できない」という声には、「向き合ってくれる人がいない」「信じてくれる人がいない」という想いが込められているのではないのでしょうか。
必要なのは、特別な支援ではなく、「当たり前の日常」です。

私たちは、出会う少女たちの伴走者となり、共に考え、泣き、笑い、怒り、歩む力になりたいと思っています。すべての少女が「衣食住」と「関係性」を持ち、困難を抱える少女が暴力を受けたり、搾取に行きつかなくてよい社会を目指して活動を続けます。

2017年5月
一般社団法人Colabo
代表 仁藤夢乃



2016年度 活動概要

■相談事業

・相談者数	135名
・面談	400回
・同行支援	151回
・他機関連携	119件

■食事・物品提供

・食事	568食
・物品	336件
・「難民高校生」	87冊

■一時シェルター

・稼働日数	111日
・利用者・利用件数	27名、218件
・宿泊者・宿泊日数	14名、40泊

■サポートグループ「Tsubomi」の活動

・参加者・活動日数	36名、94回
-----------	---------

■啓発事業

・講演会	57回、9,005名参加
・街歩き研修	35回、284名参加

目 次

■私たちの想い	1	■啓発事業	9
■2016年度活動概要	2	夜の街歩きスタディーツアー	
■夜間巡回・相談事業	3	■メディア掲載	11
相談を受けた少女への対応		■会計報告	12
■食事・物品提供	5	■会員・寄付・物品応援	13
■一時シェルター	6	■ご支援のお願い	14
■サポートグループ「Tsubomi」	7		
企画展「私たちは『買われた』展」			

夜間巡回・相談事業

深夜の街を巡回し、帰らずにいる少女に声をかけ、繋がっています。
また、HPやSNSなどを通して全国から寄せられる相談にのっています。

夜間巡回

12
回

相談者数

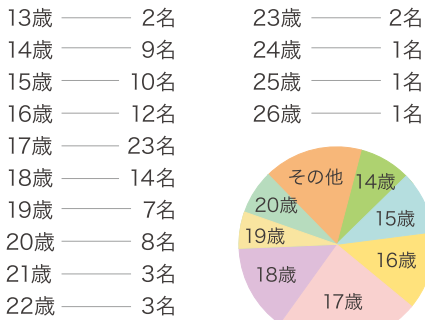
135
名



相談者の属性と現状

- ・本人からの相談 ———— 96名(うち、新規62名、男子5名)
- ・本人以外からの相談 — 39件(友人7件、母親5件、医師3件、教員8件、その他支援者16件)

■年齢(本人からの相談)



■出会ったきっかけ

- ・友人の紹介 ———— 19名
- ・SNSを通して ———— 18名
- ・街やSNSでスタッフから声をかけられて — 16名
- ・支援者・知人の紹介 ———— 13名
- ・仁藤が高校の授業に来たことや講演 ———— 10名
- ・HPをみて ———— 7名
- ・企画展を通して ———— 7名
- ・テレビ、新聞をみて ———— 4名
- ・仁藤の著書を読んで ———— 2名

相談は全国から寄せられ、東京、神奈川、千葉、埼玉を中心に、北海道、宮城、福島、栃木、群馬、茨城、静岡、愛知、滋賀、京都、大阪、和歌山、福岡、熊本、長崎などで少女たちと出会い、関わっています。

■相談内容

家庭のこと

188
件

学校のこと

78
件

性のこと

122
件

その他

107
件

- | | | | |
|-----------------|-------------------|-------------------|------------------|
| ・虐待 ———— 52件 | ・高校中退に関する相談 — 20件 | ・性被害 ———— 40件 | ・公的機関の対応について 27件 |
| ・家族関係 ———— 43件 | ・友人関係 ———— 19件 | ・売春 ———— 30件 | ・契約のトラブル ———— 8件 |
| ・家を出たい ———— 26件 | ・進路 ———— 16件 | ・妊娠 ———— 17件 | ・病院に行きたいが行けない 8件 |
| ・生活困窮 ———— 25件 | ・いじめ ———— 14件 | ・JKビジネス ———— 12件 | ・自傷行為 ———— 28件 |
| ・家出 ———— 23件 | ・学校に行かせてもらえない 2件 | ・恋人からのDV ———— 11件 | ・借金 ———— 7件 |
| ・居所なし ———— 8件 | ・教員・学校のこと ———— 7件 | ・セクシャリティ ———— 2件 | ・薬物 ———— 6件 |
| ・親の逮捕 ———— 6件 | | ・その他 ———— 10件 | ・知的障害 ———— 4名 |
| ・親の自死 ———— 3件 | | | ・精神障害 ———— 14名 |
| ・その他 ———— 2件 | | | ・発達障害 ———— 5名 |

家族からの暴力やネグレクトなど、虐待に関する相談が52件。その内容は、身体的虐待36件、精神的虐待33件、性的虐待11件、ネグレクト24件、過干渉6件、経済的虐待9件とさまざまです。中でも、児童福祉につながった経験を持ちながら、適切に対応されなかったことから不信感を抱く少女たちとの出会いが続いており、今年は公的機関での不適切な対応に関する相談も27件ありました。相談者に「児童相談所と関わったことはある？」と質問すると、「あんたもそっちの人間か」と

厳しい目つきでバリアを張るような様子を見せたり、夜の街で声をかけたとき「保護じゃないよね？」と怯えた表情で言われたりしたこともあります。

生活が困窮し、家庭が福祉に繋がっていても、虐待があり、うわばきや文具を親に買ってもらえない、給食費や修学旅行費が払えないなどの理由から売春していた中高生との出会いや、「親の都合で学校に行かせてもらえない」、親に怒られるから「病院に行けない」という相談や「ガスや電気が止まっている」「親が家に

帰ってこなくなった」などの相談もありました。

安心して過ごせる場所を持たないまま、なんとか生き抜こうとする中で、危険に巻き込まれた少女たちと出会っています。特に、性被害や性的搾取の被害に遭った少女たちは、安全を手に入れてからもトラウマや精神的な不安を抱えて生きています。そのため、一時的、緊急的な支援だけでなく、医療や福祉の専門家と連携しながら、中長期的なかかわりや暮らしづくりを支える活動を大切にしています。

少女たちの伴走者に

少女たちはいくつかの問題を複合的に抱えています。困っている人の一番の困りごとは、「助けて」と言えないこと。「あなたは どうしたい?」と問われても、それがわからないことです。混乱した生活の中、落ち着いて考えられる環境や、一緒にものごとを整理してくれる人との信頼できる関係性や体験があって初めて、自分の状況に向き合うことができます。私たちは、食卓を囲む時間や体験を共有し、何気ない日常を積み重ねることで互いを知り、困った時に頼れる関係を築きたいと考えています。半年以上密に関わって初めて、性的虐待の被害にあっていることを話してくれる人もいます。ほとんどの場合、抱える問題はすぐに解決できることではありません。だからこそ、長い目で付き合い、ともに喜びや苦しみを分かち合い、泣き、笑い、怒り、共に歩める伴走者でありたいと活動しています。

相談を受けた少女への対応

■面談：400回

- ・本人との面談 ————— 362回
- ・その他関係者との面談 — 38回



■同行支援：151回

同行先

- | | |
|----------------------|-----------------|
| ・病院 ————— 19回 | ・警察 ————— 7回 |
| ・学習会・研修 ————— 19回 | ・児童相談所 ————— 6回 |
| ・家庭訪問 ————— 16回 | ・里親家庭 ————— 6回 |
| ・面談 ————— 14回 | ・引っ越し ————— 4回 |
| (学習支援団体、教員、大家、弁護士など) | ・児童養護施設 ——— 1回 |
| ・役所 ————— 13回 | |
| ・学校 ————— 10回 | |
| ・各種手続き・買い物 — 10回 | |
| ・学校・職場見学 ————— 9回 | |
| ・自立援助ホーム ————— 9回 | |
| ・ハローワーク ————— 8回 | |

■他機関連携：119件

- ・他支援団体 ————— 24件
(学習支援団体6件、自立援助ホーム4件、子どもシェルター3件、女性シェルター1件、性暴力被害者支援団体3件、子ども支援団体7件)
- ・学校 ————— 24件
- ・行政 ————— 18件
- ・弁護士 ————— 17件
- ・児童相談所 ————— 9件
- ・病院 ————— 8件
- ・警察 ————— 7件
- ・児童養護施設 ————— 7件
- ・里親 ————— 4件
- ・民生委員 ————— 1件

■同行支援から見てきたこと

必要に応じて家庭や警察、病院、児童相談所等への同行支援を行っていますが、特に、売春や家出などの渦中にある少女たちが公的支援を受けることに高いハードルを感じています。彼女たちは、そうせざるを得ない状況を生き延びてきたと私たちは考えていますが、「非行少女」として取り締まりの対象となったり、問題行動があるからと公的機関や医療機関での受け入れを拒否されてしまうことがよくあります。

例えば、性虐待から逃れ、地方からやってきた女の子と警察に相談に行った

ら「事件が起きた地元は今すぐ自費で帰って、そちらで被害届を出すように」と言われたり、ホームレス状態で売春をして生き延びていた女の子が生活保護の申請をした際に役所から「うちでは現地保護はやっていない」などと違法な説明を受けたり、「売春をやめたい。家にいたくない」と保護を求めた高校生に児童相談所が性依存症の自助グループを紹介し、家に帰したこともありました。彼女たちに必要なのは、指導や管理、矯正ではなく、安心して過ごすことのできる場所や、信頼できる大人との関係性、医療や

教育、専門的なケアなどです。

相談者の状況によって、一時的な対応でいったん問題が解決することもあるかもしれませんが、中長期的な支援が必要な場合もあります。頼れる家族がいなかったり、親族から身を隠して生活しなければならない状況にあたりする場合では、家探しから、生活に関する相談やトラブルへの対応、大家への挨拶、病気の時の看病、洗濯や掃除、食品の保存方法、服薬管理や貯金、進学や就労に関するアドバイスなど、生活全般を見守っています。

食事・物品提供

一緒に料理したり、食卓を囲んだりする時間を大切にしています。十分に食事を取ることができていない人や、孤食を続けている人がおなかを満たすだけでなく、自分の状況を整理したり、出会いや関係性づくりの場にもなっています。

食事提供
568
食

衣類・物品提供
336
件

—
|
—
応援者の方からいただいた衣類、文具、生理用品、生活用品などを少女たちに贈ったりしています。

「一緒にご飯を食べよう」その一言から始まります。

困っている人の一番の困りごとは「助けて」と言えないことです。非行や家出をくりかえしていたり、困難を抱えたりしている少年少女の多くは、「自分の問題なんだから、自分でなんとかしなきゃ」「周りを巻き込みたくない」と強い気持ちを持っています。その結果、ひとりではどうにもならない事態にまで発展しているケースもあります。



私たちは、そんな少女にまずは「一緒にご飯を食べよう」「今度ご飯食べにおいでよ」と声をかけています。共に料理をし、食卓を囲み、笑いあい、互いの話をし、関係性をつくっています。

ある全国各地の少女たちへの食品や生活用品の提供も行っています。Colaboに來ると、おにぎりやおかずが持ち帰れるようになっていて、翌日の食事や冷凍保存用として、また家族や恋人に持ち帰る人もいます。

食事の場は「相談する」ことへのハードルを下げることもつながります。困ったときに「相談したいです」と申し出ることは、誰にとっても簡単ではないでしょう。そんなとき、女の子たちは「そろそろご飯したいです」と連絡をくれたり、こちらから誘ったりしています。

「大人はわかってくれない」という言葉の裏には、「向き合ってくれる大人はいない」という想いが込められています。彼女たちに必要なのは特別な支援ではなく、当たり前の日常です。



私たちは食卓を囲むことを通して、困ったときに、できれば事態が深刻になる前に相談できる関係性、彼女たちがいつでも戻ってこられるホームの1つとなれればと活動しています。



持ち帰り用の
お弁当



鍋など大勢で食べる料理を食べたことがない、誰かが料理している所を見たことがないという少女もいます。ある時「調理されていない野菜や生肉を見たのは数年ぶり」と高校生が言いました。彼女は、妹たちと子どもだけで生活していて、家には包丁や食器もないことがわかりました。生活が困窮している少女から、「家に食べ物は何もない」と連絡があり、食料を届けることや、児童養護施設を退所した人や、家族が頼れない状況に



「非行で片づけないで」（15歳・Kさん）

私の家は些細なことから罵りあいが始まる。私の家に居場所はなかった。学校ではいじめられて担任の先生に相談したけど何も変わらない。私は学校にも居場所がなかった。

家に居ても寂しくて、寂しい時決まってすることがあった。それは「家出」。

家出をしていろいろな人の元を泊まり歩いた。時には記憶が無くなるまでお酒を飲み、時にはお金を盗まれ、時にはレイプされた。それでも家に居るよりはマシだった。誰かに話を聞いて欲しかったのかもしれない。誰かがそばに居てくれるだけでよかったのかもしれない。でもそれは家や学校では出来なかった。

だからその欲求を私に近づいてくる大人達に向けた。でもその大人達は私の話を聞き、そばに居る見返りに体を求めた。拒んでも無理やりやられるのが分かっていたからある時から拒まなくなった。そんな私をヤリマンとして噂して離れていく友人もいたが私にはこうするしかなかった。

本来話を聞いてくれるべき人が、そばにいてくれるべき人が居てくれればそれでよかった。ただ寂しかっただけなのに。

一時シェルター

緊急時の保護、宿泊支援

虐待や性暴力被害から、安心して過ごせる場所がない少女が、一時的に過ごすことのできる場所として運営しています。今日一夜を過ごすことができる場所がない、帰れるところがないという少女が利用しています。



体を休め、落ち着いて考えられる場所を

安心して眠れる場所がないとき、困るのは、泊まれるところがないこと。「家にいられないとき、声をかけてくるのは体目的の男の人だけだった。そういう人しか自分に関心を持たないと思っていたし、頼れるのはそういう人だけだった」とある中学生が言いました。2011年の団体設立から2015年夏まで、行き場を失った少年少女たちを代表仁藤の自宅に泊めていました。複数のスタッフで少女たちを見



守れる、少女たちが気軽に立ち寄れる場所を作ろうと寄付を募り、シェルターを開設することができました。

「今の状況を変えたい」と思っている人の他、公的な保護につながることを嫌がりながらも「今日は安心して過ごせる場所がない」という人や、家出し見知らぬ人の家を転々とす

る生活を続けながらも「ちょっと休みたい」という人も使える場所として運営しています。

虐待や性暴力からの保護だけでなく、「今日は母親の彼氏が来るから家にいられない」「自宅の電気やガスが止められている間だけ泊めてほしい」「試験期間だけ泊まって朝起こしてほしい」「家では安心して眠れないから仮眠したい」などの利用もOKとしています。宿泊以外にも、日中ゆっくりするのに使ったり、パソコンや宿題をしにきたり、キッチンやお風呂や洗濯



機の利用なども自由にできるようになっています。2016年度は仮眠利用79件、洗濯機・風呂のみの利用も18件ありました。



ご飯づくり

必要に応じて、弁護士や医師、児童福祉などの専門家と連携し、相談者が安心・安全な場所で生活できるように一緒に考えます。これまで利用した人の中には、里親のもとで生活をはじめたり、自立援助ホームに入所したり、一人暮らしを始めるなどしている人がいます。しかし、未だ安定した生活を手に入れられずにいる人も少なくなく、2016年度から、中長期シェルターとして、自立を目指す10代後半～20代前半の女子のためのシェアハウスを始めました。



自立支援シェアハウス（中長期シェルター）

中長期シェルターを「自立を目指す20歳前後の女子のためのシェアハウス」として運営しています。鍵付きの個室が3部屋とリビングやキッチン、風呂、トイレなどがあり、初期費用なしで入居でき、



キッチン

はじめの三か月は家賃無料（それ以降は月額利用料3万円~ですが、状況に応じて相談）。家具家電あり、お米食べ放題。



リビング

います。Colaboは彼女たちが主体的に生活を送れるようにサポートします。管理者は常駐しませんが、地域の方とも連携しながら、いつでもスタッフや協力者がすぐに駆けつけられる体制をとっています。ここで生活する間に、生活スキルを

自主性を尊重しているため、ルールは利用者たちで決め、食事やゴミ出しなども自分たちで行

身に付け、学校に通ったり、仕事をしてお金を貯めたりし、一人暮らしなどの自立を目指します。



鍵付きの個室が3部屋



個室

サポートグループ「Tsubomi」

Tsubomiは、Colaboとつながった少女たちによるグループです。
それぞれが困難な状況に向き合いながら、ともに活動し、支え合いの
関係も生まれています。

参加者

36
名

活動件数

94
回

延べ参加人数249名

つながり、主体となって活動する

10代の少女たちが共に過ごす場をつくり、
同じように悩んできた人たちと出会うこと
で自分の状況を整理したり、向き合ったり
するきっかけとなっています。虐待や性暴
力の被害など、普段の関係性の中では話
しにくいことも安心して話せる場所。「売
春をやめたいけれど自信がない」という
15歳の少女に、他の少女がアドバイスを
していることや、スタッフには言いにくい
ことを打ち明けるような関係性も生まれ
ています。

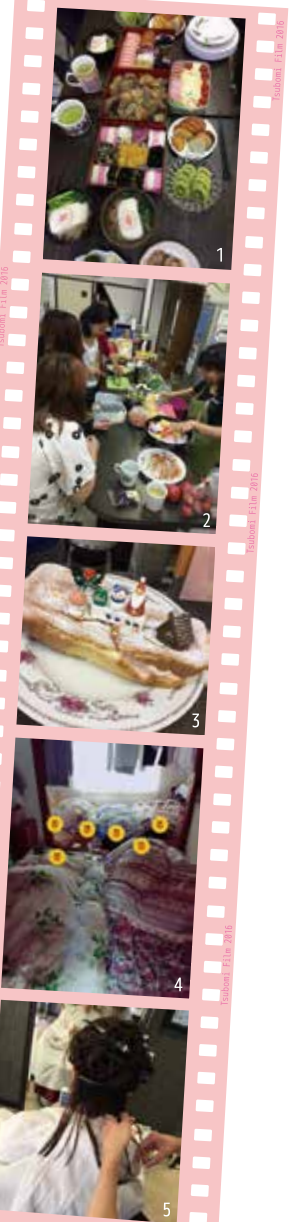
合宿や夏祭りなどの他、日常的なお祝い
を共にしたり、シェルターの開設準備をし
たり、Colaboに届く寄付品の仕分け、バザ
ーの出店などを共に行ってきました。国
連や米国の人身取引や児童買春・児童ポ
ルノの調査に協力し、証言するなど実体
験を伝える活動もしています。

- 季節のイベント：誕生日会、入学・卒業祝い、お花見、
クリスマス会、遠足、イルミネーション鑑賞
- 研修・教室：料理、アロマ、ネイル教室、学習会
- ものづくり：アクセサリー制作、商品開発
- 出店：バザー、夏祭り
- 伝える活動：講演会などでの発言、国連や米国国務省へ
の調査協力、「私たちは『買われた』展」の企画・準備
- 体験活動：映画鑑賞、レインボーパレードへの参加、
職場見学、保育園ボランティア、ヘアカット
- 合宿：春合宿（5月・企画展準備）、夏合宿（7月）、
秋合宿（10月・滋賀・支援団体訪問）、年末年始合宿
（12～1月）、京都合宿（2月・支援団体訪問）

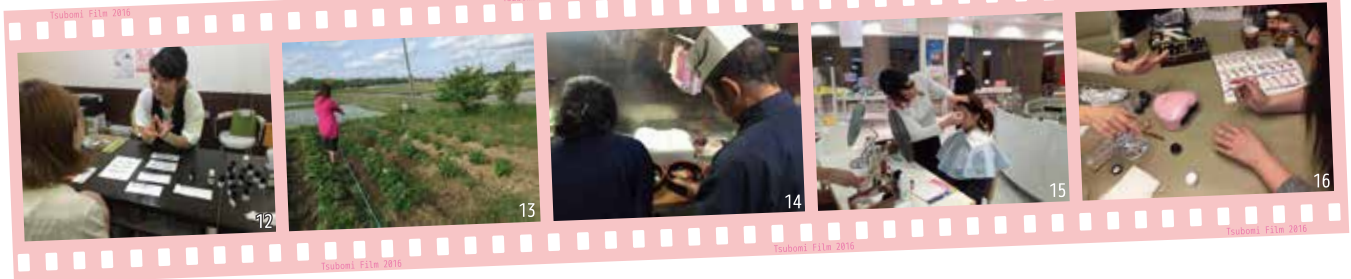
コラボに出会えてよかったなって
思うことは、自分と似たような
状況の人とお話できることです。
例えば私の場合、生活保護を
受けている身なのですが、
友達とかには話しにくい事を
コラボにいる人には
「こういうことがあったんだよね〜」
って言うと「あ！わかる私も！」って
なってくれる人がいて、
私だけじゃないんだなって安心します。
コラボみたいな場所がもっとたくさん、
いろんなところに増えてくれれば
なって思います。（17歳・Kさん）

- 6 夏祭り
- 7 誕生日会
- 8 成人祝い
- 9 京都合宿
- 10 勉強
- 11 滋賀合宿
子ども支援団体訪問・宿泊
- 12 アロマ教室
- 13 茨城合宿 畑作業
- 14 寿司づくり
- 15 エイボン商品開発会議・メイク体験
- 16 ネイル教室

- 1 元旦・おせち
- 2 料理教室
- 3 クリスマス会
- 4 年越し合宿
- 5 ヘアカットイベント



薔 -TSUBOMI- それは、まだ咲いていない花。



企画展「私たちは『買われた』展」

●企画目的

中高生世代を中心とする当事者がつながり、声を上げることで、自分たちの権利を回復し、児童買春の現実を伝え、世の中の持つ「売春」のイメージを変えたい。これまで表に出ることができなかった「買われた」私たちの声を伝え、今も苦しんでいる少女たちや、かつて似た苦しみを経験した女性たち、すべての女性に勇気を与えたいと、Colaboとつながる14～26歳まで24人のメンバーが立ち上がりました。

2016年8月の神楽坂（開催日数：11日間、来場者数：2975名）に始まり、10月・横浜（6日間、451名）、1月・滋賀（5日間、412名）、3月には京都（4日間、276名）で開催し、計4114名の方にご来場いただきました。「買われた」現実や伝えたいことを表す写真、体験談や手記、日記、「大人に伝えたいこと」をテーマにしたメッセージや作品を展示しました。



<売春している中高生について、どんなイメージを持っていますか？>

ある大学の授業で学生たちにこう投げかけると、こんな言葉が返ってきた。

- 快楽のため
- 愛情を求めて
- その場限りの考えで
- 遊ぶお金がほしいから
- 優越感に浸るため
- 自分も街で買春をもちかけられたことがあるけど、断った。
だから、やる人はやりたくてやっているんだと思う
- 正直、そんな人と関わりたくないと思う
- どうしてそこまでやれるのか、理解できない

当事者のAは言った。

「そんなもんだよ。世の中の理解なんて。もう、そんなことでは傷つかなかった。」

後日、このことをColaboにつながるメンバーで共有し「イメージを変えたい!」と、この企画に至りました。

「行くところがないとき、声をかけてくるのは男の人だけだった。他にご飯を食べさせてくれる人も、泊めてくれる人もいなかった」(16歳・高校生)

「親も頼れる大人もいない、ひとりで生きていくしかないと思っていた。買った大人への怒りとかいうよりも、買われる前の背景があることを知ってほしい。家族や学校、施設で虐待されたり、ひどいことを言われたりしたことが繋がっている。そうでもしないと、生きられなかった。」(20歳・高校生)

「Colaboには、同じような経験をしたお姉さんがたくさんいて、昔同じような経験をした女の人から支援が届いているのを知って、自分だけじゃなかったって安心した。考えてもらうきっかけになったらいいいし、何か感じてもらえるだけでいい。」(15歳・中学生)



各地で企画展を開催したい団体を募集中！
パネル貸し出しについてはお問い合わせください。



日本では児童買春について「援助交際」などの言葉で、少女たちが気軽に足を踏み入れるものというイメージで語られてきましたが、そこにあるのは「援助」や「交際」と言えるようなものではなく、「支配」と「暴力」の関係性です。企画展を通して、

金銭を介することで性暴力を正当化しようとしたり、買う側の気軽さには目を向けない大人がたくさんいることに気づきました。

一方、企画展を通して、「私も同じ」と人身取引や性虐待などの被害に遭っていることを相談してくれる中高生との出会いが続いています。声を上げた少女たちの体験に共感し、「これまで、苦しんでいるのは自分だけだと思っていた」と、14歳の少女が言いました。来場者アンケートでも、「買われた」経験をもつ10～60代の女性たちからの感想を300通ほどいただきました。かき消されてきた声があることを改めて感じています。

私たちが、いま、ここに生きていることを知ってほしい。

啓発事業

「関係性の貧困」「性的搾取の対象になりやすい中高生」「居場所やつながりを持たない高校生」「SNSの危険」など、青少年を取り巻くさまざまな問題、実態について講演やワークショップを行います。

●講演・ワークショップ ●夜の街歩きスタディーツアー

講演会

57
回

参加者

9,005
名

講演依頼を
受け付けております。
HPからお問合せ
ください!

「最近の若者はわからない・・・」

「子どもたちを守るにはどう関わればいいのか?」一緒に考えてみませんか?

中高生向け



テーマは、家族関係、友人関係、居場所、進路選択、JKビジネスや性について、SNSの使い方や危険、国際協力や被災地での活動、貧困問題に

ついて等幅広く、中高生の目線に合わせてお話ししています。講演会をきっかけに、相談支援につながったり、教員など身近な大人にSOSを上げる生徒も少なくありません。

参加者の感想

●定時制高校・高1女子 「友達がJKリフレや夜の仕事をして、中学んとき自分もやろうとした。でも裏の世界で働いてる先パイで幸せそうな人もいないし、だからそのために高校も卒業して色んな事を学びたいと思った」

●全日制高校・高2女子 「人って変われるんだと思った。どんなにやんちゃでも、ひきこもり気味でも、人は絶対変わる。今この場所この時間にいられることがどれだけ幸せか考えさせられました」

●特別支援学校・高3男子 「しょうじき、ぼくの人生も楽しいといえず、学校にいくのも仕事に行くのもいやす。ぼくには助けてくれる人はいない。1人なんだからって思って、最近は食欲もない、人を信じられない、それでも頑張ってる生きています」

大人向け



今、日本の中高生はどのような状況におかれているのか。活動の中から見えてきた実態をお話しします。テーマは、女性の

人権、虐待、貧困、高校中退、不登校、子どもの居場所、性暴力、インターネットの危険等、さまざまです。困っている子どもたちがどんな想いでいるのか、その背景には何があるのか、私たちには何ができるのか、一緒に考えます。

参加者の感想

●70代男性・電話相談員 「知らない世界が生々しく迫ってきた。知らぬ単語が続出し、戸惑い、不勉強かなと思った。10代の使用ツールなど、詳細を話していただけてよかった。我々の時代とは違う生き難い実態を知り、予想以上の現実には驚いている」

●40代女性・保護者 「女子高生の現状を聞きショックでしたが、その現状を知らなかったこともショックでした。子どもが性の対象として消費されている現状。私にも小学生の娘がいるので、母として、女性として、人として、考えさせられました。自分にできることは何か、じっくり考えたい」

2016年度 講演実績 (敬称略・順不同)

■行政、公的機関

関東児童自立支援施設協議会/横浜市内南区こども家庭支援センター/平塚保健福祉事務所秦野センター/川崎市麻生市民館/練馬区主任児童委員連絡会/座間市青少年補導員協議会/武蔵野市/男女共同参画センター(長野県、栃木県)/大阪府人権教育研究協議会/和歌山県橋本市/広島県家庭相談員連絡協議会/福岡市人権尊重推進委員会/鳥取市/鳥取県生活環境部くらしの安心局/松山市人権推進協議会

■民間(NPO、地域支援団体等)

東京弁護士会/全国フェミニスト議員連盟/子どもソ

ーシャルワークセンター/ボルノ被害と性暴力を考える会/慈愛寮を支える会/鹿児島子どもの虐待問題研究会/京都府更生保護女性連盟/日本基督教団神奈川教区寿地区センター/NPO法人青少年の自立を支える道南の会/一般社団法人社会的包摂サポートセンター/NPOひまわり/無料塾セミナー/藤市塚越コミュニティ委員会/"がきんちょ"ファミリー/FLOWER GARDEN/若草プロジェクト/NPO法人プレーパーク/せたがや/特定非営利活動法人赤磐子どもNPOセンター/NPO法人とよなかESDネットワーク/堺市女性団体協議会/川崎市職員労働組合/川崎地方自治研究センター/公益財団法人鳥取市人権情報センター/関東ブロック司法書士協議会/共同通信(内定者研修)

■教育関係

東京私立学校教職員組合青年部/和光中学親和会/法政二中高教職員組合/法政二高教育研究所/文京区青少年委員会/静岡県高等学校養護教育研究会

■学校(生徒向け)

横浜市立本牧中学校/神奈川県立秦野総合高等学校/埼玉県立熊谷商業高等学校/国際基督教大学高等学校/都立日本橋高等学校/神奈川県立座間高等学校/長野県岡谷南高等学校/一橋大学/明治学院大学/静岡県立大学/都留文科大学

夜の街歩き スタディー ツアー

開催数

35

回

参加者数

284

名

参加者募集中!

詳細はHPへ

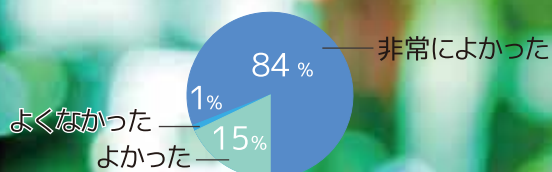


夜の繁華街を歩き、身近にありながら大人たちの目には見えにくい現状を解説します。目で見て肌で感じていただき、現状を知り、「気づける大人」を増やしていくための活動として位置づけています。普段の生活の中では気づきにくい、少女を取り巻く現状を知っていただく機会です。ぜひ、ご参加ください。個人での参加のほか、団体の研修としてもお受けしています。5名以上での申し込みで、お好きな日程で調整可能です。

参加者

教員、保護者、児童福祉、医療、警察、行政関係者、弁護士、議員など

ツアー参加者の満足度 (アンケート回答者55名)



- ・少女を取り巻く危険や実態を知ることができた — 96%
- ・これまで気づくことのなかった現状を知れた — 96%
- ・青少年を見る目や、若者に対する見方が変わった — 75%

参加者の声

見ようとしなければ見えない現実が たくさんあるのだと知らされた夜になりました。

「普通の子」が危険と隣り合わせの状況にいたことがわかりました。身近なスポットが犯罪の温床になりうること、スカウトが街中に溢れていることなどを知り、自ら近づかなくても危険が向こうからやってくることを知りました。少女を狙う大人を「1番の理解者」だと信じてついていってしまう子どもたちがいることを知り、「相談しやすい」「頼れる」「信じられる」大人になりたいと思いました。

20代女性 会社員

大人の欲望や無関心が 背景にあることを知りました。

解説されないと少女たちや、彼女たちを狙う大人の存在に気付かなかった自分の鈍感さを不甲斐なく感じました。仕事では、目の前の子どもや家族の中の問題にばかりに関心が向きがちですが、それだけでは問題を正確に理解できないと学ばせていただきました。今後、子どもを取り込む手口や社会の問題に関する知識をアップデートすることを怠ってはいけなと感じました。

20代男性 公務員 裁判所勤務

目を背けてきた世界の入り口に 案内された気分でした。

家庭や学校では「関わらないように」と教育され、これまで視界に入れないように過ごしていましたが、関わらない=無視することだったと気づきました。普段出かけることのない夜の街での様子を見たり、実際の支援活動や実態をお話いただき、大変参考になりました。参加者同士の意見交換も貴重な経験でした。普段話す機会のないバックグラウンドの方々と同じテーマで考えることができたことを有意義に思います。

30代女性 会社員

視点を変えて歩くことで、 自分の中の偏見に気付かされました

私は街でスカウトの人に声をかけられることやJKビジネスなどを、「よくあること」「当たり前におきていること」と認識し、制服で客を招く少女を見ても「好きでやっているのだろう」「自分には関係ない」と気にも留めずに通り過ぎてしまっていました。少女たちに迫る危険や、抱えている困難、それに付け込み少女たちを利用し、お金をもうけようとする人など、私が今まで気づけなかったことが現実であることに戸惑いました。参加してよかったと心から思います。

20代女性 大学生

メディア掲載

テレビ出演

- 2016年
7月 フジテレビ・報道2001
8月 NHK・あさイチ「女のニュース 私たちは“買われた”」
9月 NHK・ETV特集
「私たちは買われた—少女たちの企画展」
- 2017年
2月 フジテレビホウドウキョク・あしたのコンパス

ラジオ出演

- 2016年
7月 J-WAVE・AVALON「渡辺直美さんと対談」

新聞掲載

- 2016年
8月 NHKニュース 『買われた』展
少女の“売春”の背景に何が
朝日新聞 私たちは「買われた」展
女子中高生のSOSを知って
毎日新聞 私たちは買われた展
女子中高生の体験、パネルに表現して
読売新聞 中高生売春、思い伝える「企画展」
東京新聞 「買われた女性」の心の叫び
東京・神楽坂で企画展
共同通信 「『買われた』苦しみ知って」
(産経新聞や地方紙に掲載)
沖縄タイムス 買われる前の背景があることを…
福祉新聞 「買われた」女子中高生の気持ち知って
写真や文章を展示
図書新聞 孤立させない—連鎖する性暴力被害の
なかで、子どもたちがどのように生き抜いてきた
のか、その実態を社会に広く知らせる展覧会
The Japan Times Tokyo exhibition focuses on
plight of sexually exploited girls
しんぶん赤旗 「『買われた』中高生 当事者が
企画展」 「私たちは『買われた』児童買春の
実情を当事者が大人に訴える」
- 9月 読売新聞 【狙われる女性】(3) 少女
「売春するしかなかった」

新聞掲載 (続き)

- 2016年
10月 朝日新聞 「買われた私たち 痛切な思い」
南日本新聞 「少女の性被害 目向けて」
神奈川新聞 「買われた背景知って」
毎日新聞 「児童買春の実態 写真展で」
新ふじん新聞連載(2016年10月~2017年3月)
「少女はなぜ買われたか①~③」
「孤立する少女に大人ができること①~③」
京都新聞 「貧困の子 頼れる大人必要」
11月 毎日新聞 「子どもの立場で考えて」
12月 北海道新聞 「女子高生を性被害から守ろう」
函館新聞 「当たり前の日常が必要」
神奈川新聞 「『助けて』言える相手を
軽度知的障害女性の性被害」
朝日新聞 「私たちは『買われた』展、
関西で初開催」
- 2017年
1月 時事通信 「人を頼り、助ける人に」
(静岡新聞・福島民報など)
京都新聞 「JKビジネス、私たちは『買われた』
大津、思い伝える企画展」
3月 産経新聞 「JKビジネス少女の本音
『客気持ち悪い』」
朝日新聞 「少女売春の実態知って
私たちは『買われた』展」

雑誌・書籍

- 朝日出版『AERA』2017年3月20日号
「現代の肖像」
エイデル研究所 季刊『SEXUALITY』No.78
「セーフティーネットとしての性教育へ『さまよう少女たちの
性』」
教育科学研究会『教育』2016年7月号
「漂う中高生に私たちができること」
子ども虐待の予防とケア研究会『子ども虐待の予防とケアの
すべて』
いのちのこことば社『百万人の福音』2016年9月号
「小さき人の傍らに立つ」

ウェブメディア

- AFP通信
「私たちは『買われた』展」東京・神楽坂で21日まで
- BuzzFeed
上履きを買うために売春した少女。貧困や性的虐待、中高
生を追い込んだ現実
- 日経ウーマンオンライン
ビルの屋上で寝ていた10代 街中にシェルターを作るの
が夢／元「難民高校生」働くとは近しい人を楽にすること
- ヨミドクター
性に無防備な女の子に向けられる暴力／一般社会にも染
み込んでいる暴力的な性関係／きれいな事でない、あなた自
身を助ける性教育を
- ウェブちくま
「女子高生が性を買われるということ」

機関誌、その他

- 2016年
12月 いつでも元気「巻頭エッセイ」
- 2017年
1月 子育てママ向け情報誌『クルール』
こどもと向き合う
連合通信新年特集号
「少女を『買う』社会は恥ずかしい」
映画『さとに來たらええやん』パンフレット
映画『まなぶ』パンフレット



詳しくは下記サイトへ
ダウンロードや記事を読覧できるものあります

<http://www.colabo-official.net>

2016年度 会計報告

第5期会計報告（2016年4月～2017年3月） 単位：円

受取会費	2,000,936
受取寄付金	4,909,835
難民高校生を贈ろうプロジェクト	50,000
一時シェルター開設・運営	882,805
「私たちは買われた」展	896,073
熊本・大分自身復興支援	182,000
保育園ボランティアサポート	41,200
受取助成金	
公益財団法人日工組社会安全研究財団広域安全事業助成	2,000,000
JT NPO事業助成	1,500,000
草の根市民基金・ぐらん「都内草の根助成」	500,000
中央ろうきん若者応援ファンド	2,000,000
事業収益	
居場所づくり事業	6,767,097
情報提供事業	5,434,594
支援者養成事業	1,545,000
その他収益	
雑収益	102,210
受取利息	143
経常収益計	28,811,893
事業費	
人件費	4,020,000
その他経費	7,943,793
事業費合計	11,963,793
管理費	
人件費	2,580,000
その他経費	4,060,784
管理費合計	6,640,784
経常費用計	18,604,577
当期正味財産増加額	10,207,316
前期正味財産繰越額	15,183,015
次期繰越正味財産	25,390,331

今年度は、熊本・大分地震の被災地域の中高生のための支援資金や、夏休みに高校生が保育園でボランティアするための10日間分の交通費・給食費と水筒の寄付を募らせていただきました。被災地には化粧水、制汗剤、リップ、シェーバー、鏡、くし、ボディークリーム、ボディームスト、ヘアピン、ヘアゴム、ハンカチ、



ポーチ、ハンドクリーム、下着など、日頃活動で使用しているものを持って行きました。

「避難所にはこういうものは届かないから嬉しい。どうして欲しいものがわかるの?」「なんの仕事してるの?」と高校生。「生理用品が欲しくても、物資の管理・配布の担当がおじさんだから言いづらい」「欲しいものが物資にあっても大人に遠慮して、貰えない」「下着が欲しかったけど、こんな状況では親にも言えなかった」「お風呂に入れないからボディークリーム助かる」などと話してくれて、苦しい状況にある中高生に日々の活動で渡しているものが、災害時にも役立つことを実感しました。計21人（小学生以下8名、13歳2名、14歳2名、16歳3名、17歳4名、18歳2名）の子どもたちと、20～30代の女性たちにも物資を届けることができました。



避難所で高校生たちに欲しいものを選んでもらいました



会員・寄付・物品応援

想いのつまったご支援、ありがとうございました！

256
名

サポーター会員

63
名

資金寄付

プロジェクトへの寄付 企画展
「私たちは買われた展」開催

36
名

プロジェクトへの寄付
熊本・大分地震支援活動

13
名

プロジェクトへの寄付
シェルター運営

69
名

プロジェクトへの寄付
難民高校生を贈ろう

13
名 25冊分

プロジェクトへの寄付
保育園ボランティア応援

388
名

物品寄付

様々な形で活動を支えていただき、みなさまの想いと行動に心より感謝しています。

寒空の下、薄着で寒さをしのいでいた少女との出会いをきっかけに衣類の募集を開始、生理用品を買えずに祖母のオムツで代用している少女との出会いから生理用品を、新生活を始める少女のために家電や布団、中学生用の下着や文房具、妊

婦・ベビー用品など様々なものを募らせていただきました。必要としているものをすぐにご支援くださり、ありがとうございました。ご支援と一緒に送っていたメッセージは、少女にも伝えさせていただいています。少女の可能性を信じ支える仲間として、これからもよろしくお願いいたします。



2016年度活動報告会にて。応援者の方々と

助成金で支えていただきました！

(一時シェルター、中長期シェルターの運営費として)

- 公益財団法人日工組社会安全研究財団／広域安全事業助成 200万円
- 日本たばこ産業株式会社／JT NPO助成事業 150万円

シェルターオーナーとして支えて下さった皆さま

2016年度、15名の方にシェルターオーナーとして22日分運営費を支えていただきました！掲載可の方のみ、お名前を掲載させていただきます。

- 1日オーナー：野副達司様、ototama様、中川泰徳様、宮尾公信様、くられんす様、香川美里様、豆生田めぐみ様、渋谷菜穂佳様、脇本ひかる様、LECRUBIER Francois様
- 1.5日オーナー：mikamori18様、ひな様
- 3日オーナー：田口裕子様、丹羽咲江様、浜崎桂子様



感謝は少女たちと日々を重ねることで、
お返しさせていただきます。

以下の物品をご寄付いただきました

- 書き損じハガキ、未使用切手：郵送費として使用します
- 図書カード、商品券、カタログギフト：少女へ贈る本や、物品購入に使用します
- テレホンカード：緊急連絡用として少女に渡します
- 電子機器 (iPhone、ノートパソコン等)：相談事業に使用します
- 制服、衣類、日用品 (生理用品、リップクリーム、制汗剤、入浴剤、メイク落としなど)：少女に贈ります
- 食品：困窮した少女に贈るほか、食事提供支援で使用。レトルト食品、パスタソースや鍋の素、乾麺、カレーのルー等は、自炊するきっかけにもなっています。
- 農産物：全国からお米や果物、野菜等のご支援をいただきました。果物や地方の名産品は食べる機会がない少女も多く、大変喜ばれています。生鮮食品の継続的なご支援も嬉しいです。
- Amazonほしいものリストからも、たくさんのご支援をいただきました！：飲料料品、調理器具、掃除用品、家具、家電、寝具、書籍、文具など



化粧品や日用品



レトルト食品やみそ汁、パスタソースなど便利で重宝します。

ご支援のお願い

Colaboの支援方法について

私たちの活動は、みなさまのご支援に支えられています。

ぜひ、継続寄付で活動を支えるサポーター会員や、シェルターオーナーになって応援ください！会員の方には、研修割引や報告会へのご招待、会員限定メールマガジンや活動報告書をお送りさせていただきます。

会 員	年会費／1口：6,000円
寄 付	活動資金 物品（随時必要な物をHPに掲載しています）
「難民高校生」を 贈ろうプロジェクト	1口：2,000円 1人の中高生に本「難民高校生」を贈ることが出来ます。
シェルターオーナー	1口：30,000円 1口でシェルターの1日オーナーになることができます。（1日運営する費用がまかなえます。）365日開設を目指し、支援を募っています。応援、ください！

会員申し込みやご寄付は、お礼の連絡や報告をさせていただくため、HPよりご連絡の上、下記口座へお振込みください。クレジットカードからのご寄付はHPをご確認ください。



ゆうちょ銀行（ゆうちょ銀行から）
[記号] 18180-2
[番号] 3692211
[名義] コラボ

ゆうちょ銀行（他金融機関から）
[店名] ハー八（ハチイチハチ）
[店番] 818
[口座] 普通 0369221
[名義] コラボ

三菱東京 UFJ 銀行
渋谷中央支店
[普通] 0363448
[名義] イッパンシャダンハウジンコラボ

●一時シェルター運営応援サイト

<http://japangiving.jp/p/2148>

ご支援よろしく
お願いいたします。

団体概要

名 称 一般社団法人Colabo

設 立 2011年5月（2013年3月に法人格取得）

役 員 代 表 理 事：仁藤 夢乃

副代表理事：稲葉 隆久

理 事：奥田 知志（牧師、NPO法人抱樸 理事長） / 川村 百合（弁護士）

齋藤 百合子（明治学院大学准教授） / 細金 和子（婦人保護施設慈愛寮 元施設長）

監 事：打越さく良（弁護士）

村上龍氏
推薦!



2016年、
ちくま文庫から
文庫化され
ました!



難民高校生

絶望社会を生き抜く「私たち」のリアル
仁藤夢乃

高校時代、私は渋谷で月25日を
過ごす「難民高校生」だった。
一家庭・学校のつながりを失い、渋谷
を彷徨っていた中高時代。やりたいこ
とも夢も失くし、学校を中退。妊娠、
中絶、DV、リストカット、自殺未遂…。
私の周りには、そんな子がたくさんい
た。人生に絶望した私の前に現れた
のは、一人の講師だった—

英治出版 ¥1,500円 (税別)
ちくま文庫 ¥780円 (税別)



女子高生の裏社会

「関係性の貧困」に生きる少女たち

仁藤夢乃

「うちの子には関係ない」「うちの地
域は安全だ」そう思っている大人に
こそ、読んでほしい。「女子高生」を
狙うJK産業で働く少女たちの身に
何が起きているのか。少女たちの
本音から、解決策を探る。

光文社新書
¥760円 (税別)

台湾でも
翻訳版が
出版され
ています!

会員になって、活動を支援してください!



年6000円 (月500円) から継続的に活動を応援していただくサポーターを募集しています。

私たちの理念・活動にご共感いただいた方、ぜひご支援よろしくお願いいたします。

〈会員特典〉

- ①女の子の想いや日々の活動を伝えるColabo通信をお届け (不定期)
- ②活動報告会へのご招待や、街歩きツアーなどの研修割引

『難民高校生』を贈ろうプロジェクト



居場所がない、生きる希望がない、頼れる人や相談
できる人がいない、性暴力を受けている、いじめ、虐
待、ネグレクト、親や教員とすれ違いの日々…そんな
高校生たちに、本『難民高校生』を贈りませんか?

●1口: 2,000円で、1人の高校生に、『難民高校
生』を届けられます! 本には、仁藤からのメッセージ
を入れ、高校生に贈らせていただきます。

シェルターオーナーになりませんか?

虐待などを背景に少女が家に帰ることができない、家にいられ
ないとき、駆け込める場所として開設しています。シェルターは、
みなさまからのご寄付で運営しています。1口で1日の運営費を
まかなえます。オーナーとして、ご希望の方は報告書にお名前を
掲載させていただきます。ご支援よろしくお願いします。

●1口: 30,000円 …1口で、シェルターの1日オーナーになる
ことができます。365日開設を目指し、支援を募っています。

日々の活動や少女たちとの関わりを綴っています

●イミダス連載コラム

『バカなフリして生きるのやめた!』

仁藤による毎月の連載や、著名人や専門家との対談、
Colaboとつながる少女たちによる連載を掲載しています。

ぜひ、ご覧ください!

<http://imidas.jp>

●Facebookページ

<https://www.facebook.com/colabo.official>

●代表ブログ

<http://ameblo.jp/colabo-yumeno>



講演のご依頼、お問い合わせはこちらから

<http://www.colabo-official.net>

メール: info@colabo-official.net



スマホ・携帯はこちらから